



IWAMI CHISUTIKAN HIGH SCHOOL IWAMI CHISUTIKAN HIGH SCHOOL IWAMI

● 巷では全国高等学校総合体育大会での各校の活躍に沸き、勝敗結果に悲喜こもごものドラマが展開されており。本校でも多数の部活動が参加して沢山の成果を上げているところです。人権・同和教育部もこの機に！ということで学校に残っている生徒で特別授業を組むことになりました。

● 教務部との連携で内容を検討した結果、新任の西海先生一押しの映画「タイタンズを忘れない」をチョイスして生徒たちに見せることになりました。当日の職員朝礼で、教務部からの時間割説明では「松村先生の人権・同和教育講演会！」と言われて焦りました。



が、映画に先立ってレジュメを配布し、時代背景やアメリカの黒人差別と公民権運動の展開などを解説してから視聴し、なんとか無事成功裏に終わりました。

★生徒の感想文から・・・

●1年智翠館特別コース男子

「自分が一番心に残った言葉は、「自分や誰もが完璧ではない！チームとして完璧なんだ!!」という言葉です。ここを聴いて、特進クラスの目標とよく似てると思いました。」

●1年文理コース女子

「この学校には本気と本気がぶつかり合ってきた結果が沢山あると思います。だから私はこの学校で吹奏楽をやりたいと思いました。これから始まる三年間でタイタンズのようななれたら良いです。」

●1年文理コース男子

「自分もいじめを受けている人を見たことがあります。自分はその時小学生で何もしてあげることができませんでした。その時何かきっかけを作ってあげていればいじめを受けることはなかったんじゃないかと思えます。」

●1年文理コース女子

「日本は人種差別みたいに対立しあうことはないけれど、偏見的な目で見るとか、いじめだと身近な所での差別は沢山あります。人種差別が乗り越えられて、身近ないじめが無くならないわけがないと思いました。」

●1年文理コース女子

「悪口などの私たちにとって身近なことから差別が始まっていくのではないかなと私は思います。差別を少しずつでも無くしていくためには、一人一人の行動や意識がとても大切だと思うので、これから誰に対しても思いやりをもって生活していきたいです。」

●2年文理コース女子

「この映画は、私たちに肌の色の違いよりも、友情という大切なものがあるということを教えてくれたと思います。本気でぶつかって相手のことを心から信頼し合えるタイタンズのような関係性っていいな！と思いました。」

●2年スポーツコース男子

「自分はまだまだ仲間と向き合えていないし、ちゃんと向き合おうという自分があまりないと思うので、もっと自分は向き合うことを大切にしたいです」

●3年文理コース女子

「考えてみれば何も知らずに赤ちゃんは生まれてくるのに、大人になった時に差別意識があるのかと疑問に思えます。それはたぶん親が差別意識を子どもに刷り込んでいるのだと思います。」

●3年文理コース男子

「友情の大切さや頑張ることの大切さをしっかり頭に残し、また次の人につなげられる人になりたいと思うことのできる映画だった。これからも頑張っていきたいと思う」

●3年文理コース男子

「お互い話し合うことから始めたらいと思いました。うまくいかない時もあると思うけど、積極的な心と優しさがあれば必ずうまくいくと思いました。」

●3年スポーツコース男子

「互いを認め合うことができなかったチームメイトでしたが、厳しい練習を乗り越え、交流していくにつれ団結力が高まっていたところが、入学して喧嘩ばかりしていた自分たちと重なりました。今ではお互いを認め合い、お互いの違いを知っていることで団結力が高まってきたと思います。」

●3年スポーツコース男子

「自分はこれから社会に出ていくんですけど、違いを乗り越えて多くの人に学びと感動を与えられる人になりたいと思います。」